

01

ヤブガラシ類とは？

沖縄本島南部地域のさとうきびほ場においてヤブガラシ類が発生し、さとうきびの生育や生産振興に影響を及ぼしている。これらはブドウ科ヤブガラシ属の多年生つる性植物で、ビンボウカズラともいう。地下に太くて長い横走根（クリーピングルート）を張り巡らしているため、一旦定着したところでは防除は極めて難しい難防除雑草である。



ヤブガラシ類を除草したさとうきび
(除草区)



ヤブガラシ類が発生したさとうきび
(無処理区)

生育は旺盛で、茎は分枝して長く地面を覆い、葉は柄が長く、互生する。ヤブガラシ類の葉は主に5～7枚の小葉からなる鳥足状複葉^{*}で、鋸歯^{きよし}がある。葉と対生して花（散房状の集散花序^{*}）がつく。花は花弁4枚と雄しべ4本、雌しべ1本。

※鳥足状複葉：鳥の足のように小葉の柄が枝分かれしているもの。

散房状の集散花序：主軸の先端に花がつき、下から横枝が出て、その先から花がつくもの。



主に5～7枚の
小葉からなる複葉



花



熟果実